

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2016.10) 平成27年度:18-19.

OJTを活用した新人看護師への看護過程サポート

三島 玲子, 三浦 美佳, 黒崎 明子, 上田 順子

OJT を活用した新人看護師への看護過程サポート

旭川医科大学病院

○三島玲子、三浦美佳、黒崎明子、上田順子

【目的】

A 病院では新人看護師は看護過程の集合研修を受講後、看護過程を展開する。しかし、新人看護師は看護過程に困難感を抱いており、平成 23 年度より専従の教育担当看護師（以下専従教育担当者）が OJT で看護過程の指導（以下看護過程サポート）を開始した。本研究では平成 25～26 年度の看護過程サポートの指導内容を明らかにしたため報告する。

【用語の定義】

OJT: on the job training の略であり、職場で日常業務に就きながら、業務上必要な知識・技術・技能を身につける教育訓練手法。

【方法】

研究方法：専従教育担当者 3 名が、看護過程の情報収集、アセスメント、看護診断、患者目標、看護介入を新人看護師の希望に応じて 1 回 1 時間マンツーマンで指導した。専従教育担当者が行った指導はフィードバックシートに記載し部署へ伝達した。

データ収集期間：看護過程サポートを実施した平成 25 年 9 月～11 月、平成 26 年 7 月～平成 27 年 1 月。

データ収集・分析方法：専従教育担当者 3 名が記載したフィードバックシート 86 回分を看護過程の 5 項目と看護過程の要素 20 項目別に集計し分析した。倫理的配慮として A 大学の倫理委員会の承認を受け実施した。

【結果】

総指導項目数は 588 であった。情報収集は 117 (19.9%) で、事前のインタビュー内容確認 32、焦点アセスメント 20、スクリーニングアセスメント 18、不足情報聴取 17 であり、インタビュー同席は 32 回であった。アセスメントは 221 (37.6%) で、理論・病態の理解 57、患者の強みの強調 51、ゴードンの機能的健康パターン各領域のアセスメント 45、不足情報確認 38、情報の関連性 30 であった。看護診断は 126 (21.4%) で、気がかりや強みを診断概念に結び付ける 50、診断定義の照合 38、診断指標と関連因子の照合 35 であった。患者目標は 65 (11.1%) で、具体的内容が 37、診断指標と患者目標の関連が 15、目標に対する現在の状態が 13 であった。看護介入は 59 (10%) で、具体的内容が 41、関連因子と看護介入の関連が 18 であった。

【考察】

指導内容は「理論・病態の理解」、「患者の強みの強調」、「気がかりや強みを診断概念に結び付ける」の順に多かった。新人看護師は個々の患者の特性や状況に応じたアセスメント、情報から診断を導くことに支援を必要としている。集合研修で学習後、OJT で患者の個性に応じた看護診断に至るプロセスについて支援を受け、経験を重ねることにより、患者の背景を捉え、アセスメントする思考能力が育成されると考える。

OJT を活用した新人看護師への看護過程サポート

旭川医科大学病院

○三島玲子、三浦美佳、黒崎明子、上田順子

【目的】

A病院の新人看護師は看護過程の集合研修後、プライマリーナースとして患者を受け持つ。しかし、新人看護師は研修で得た知識の実践に困難を感じている¹⁾。そこで、平成23年度より専従の教育担当看護師(以下専従教育担当者)が部署に出向き、OJTで行う看護過程の指導(以下看護過程サポート)を開始した。新人看護師を対象とした看護過程教育の先行研究は少なく、本研究では平成25～26年度の看護過程サポートの指導内容を明らかにした。

【用語の定義】

OJT: on the job trainingの略であり、職場で日常業務に就きながら、業務上必要な知識・技術・技能を身につける教育訓練手法。

【方法】

専従教育担当者3名が、看護過程サポートで記載したフィードバックシート86回分を看護過程の5項目と看護過程の要素20項目別に集計し分析した。倫理的配慮としてA大学の倫理委員会の承認を受け実施した。データ収集期間:看護過程サポートを実施した平成25年9月～11月、平成26年7月～平成27年1月。

【結果】

総項目数は588であった。看護過程の5項目ではアセスメント221(38%)、看護診断126(21%)、情報収集117(20%)の順に多かった。その中でも「理論・病態の理解」57(9.7%)、「患者の強みの強調」51(8.7%)、「気がかりや強みを診断概念に結び付ける」50(8.5%)の項目が多かった。

7月 看護過程研修(集合研修)

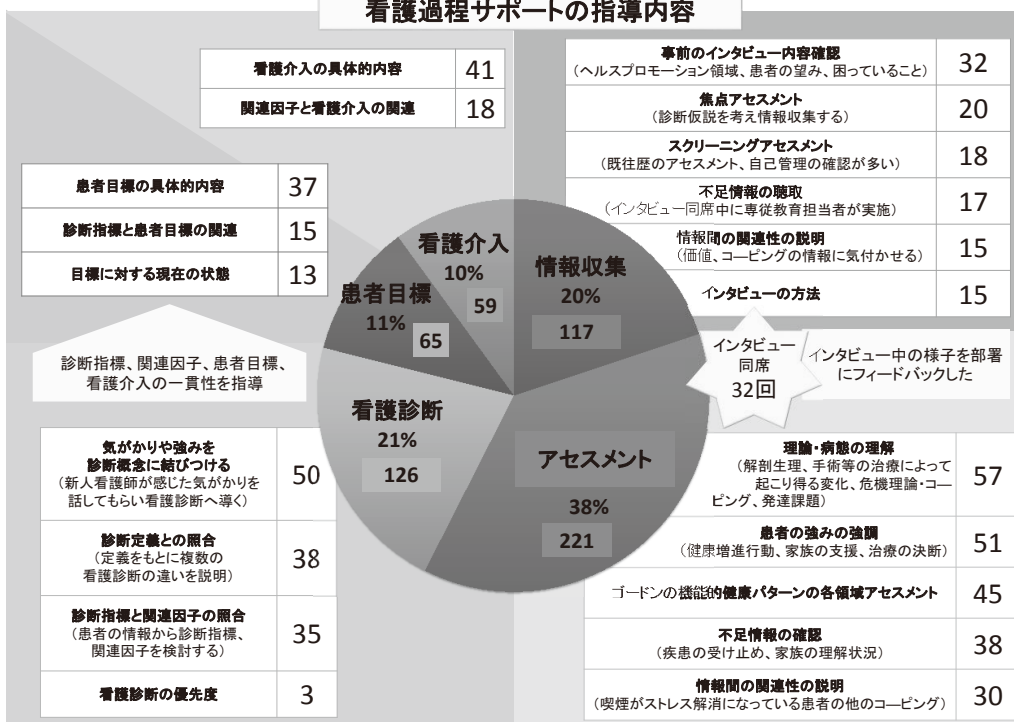
看護過程サポート

研修後、新人看護師の要請・希望に応じて専従教育担当者が、1回1時間、1対1で看護過程の指導(情報収集、アセスメント、看護診断、患者目標、看護介入)を行う。平成25年は9月～11月に実施、平成26年度はニーズの高まりから7月～平成27年1月に期間を拡大した。

指導内容は
フィードバックシートに
記載し部署に伝達した



看護過程サポートの指導内容



【考察】

新人看護師は個々の患者の特性や状況に応じたアセスメント、情報から診断を導くことに支援を必要としている。7月の看護過程研修では「看護過程を知識として理解する」までの到達度であったが、集合研修で講義を行った専従教育担当者が看護過程サポートを行うことにより、知識と実践を結び付ける継続的支援に繋がった。OJTで患者の個別性に適した看護診断に至るプロセスについて支援を受け、経験を重ねることにより、患者の背景を捉え、アセスメントする思考能力が育成されると考える。

【引用・参考文献】

1) 植山さゆり 他: 新卒者の看護過程における指導内容のニーズ, 看護診断, 14(2), 248-249, 2009